



放送大学茨城同窓会会報



ときあ

発行所

放送大学茨城同窓会(茨城学習センター内)
〒310-0056水戸市文京2-1-1(茨城大学内)
発行人 会長 細川 力
編集 会報編集委員会



茨城学習センターの現状

茨城学習センター
所長 奥 達雄

茨城学習センター所属の学生は、この4年間毎年約100人ずつ増えて、現在1200人を超えるまになりました。大学院も2年前に発足し、3月には3名の修士(学術)を出しました。10数名の修士全生も所属しています。また、卒業生は今年3月の30名を加えて140名になっています。同窓会は放送大学と一体となって生涯学習の一翼を担っていくものと期待しています。昨年9月の卒業・入学祝賀懇親会は同窓会主催で行われましたが、今後共催で行っていくような行事も出てくることと思われます。お互いに協力して大学は学生へのサービス向上を目指して、また同窓会は会員相互の親睦を図るために、いろいろな行事を開催していくことができるように思います。今後相互の連絡を密にすることが大事ではないでしょうか。

さて、1200人以上の学生を擁しながら、皆さんには狭隘なセンターの施設でこれまで我慢してきましたが、ようやく平成16年度の文部科学省の予算で茨城大学との合築が認められ、今年度中には3階建ての建物ができることになりました。**1階が茨城大学、2、3階を放送大学が使用する予定です。**場所としては茨城大学水戸キャンパスの北西の角地が予定されています。これも、大学本部の井上理事長はじめ関係各位のご努力のおかげであります。私の在任中に完成することになり、まことに喜ばしい限りです。新しい施設ができれば、同窓会で使っていただくスペースも十分取れると思います。皆さんで大いに利用していただきたいものです。

同窓会は放送大学の今後の発展に対して大きな役割を担っていると思います。ご活躍を大いに期待しているところです。学習センターで協力できることはどうか遠慮なく申し出てください。できる範囲でご協力させていただきたいと思います。また卒業生として放送大学に対して何か意見があれば遠慮なく私のほうへメールでもいいですし、あるいは直接来ていただいて頂戴できれば幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

(メールアドレス: oku@u-air.ac.jp)



総会に向けて

茨城同窓会
会長 細川 力

茨城同窓会が発足して3年目の今年は役員改正の年になります。発足時には栃木や群馬など近隣の同窓会の活動を参考にやってきましたが、ほぼ年間を通じての活動の基礎ができたように思います。

昨年から学習センターとの合同で研修旅行や卒業・入学パーティを行いました。また放送大学が主催する卒業式に併せて同窓会連合会が主催する卒業記念パーティの実行委員会として副会長の葛貫さんと2人で参加しましたが、600名余りのパーティは圧巻でした。皆さんにも是非感動を味わっていただきたいと思います。

昨年の忘年会では手ひねりの笠間焼きに挑戦したり、笠間城跡や陶芸美術館の見学など充実した内容だったと思います。

学習センターの活動のひとつにパソコンクラブがありますが、再入学した会員も活動を深めています。会員のなかには障害者や高齢者のためのパソコンの利用について、修士の研究テーマを求めたり、実力をつけて起業した会員もいます。同窓会では在学生にはそうしたことが刺激や目標になると思います。

概ね年間を通じての活動の基礎ができたように思いますが、水戸を中心にした活動拠点にさらに工夫が必要であり軌道に乗せることが必要です。また、放送大学も行政改革に伴う国立大学の特殊法人化で変化を求められています。学習センターや同窓会員さらに役員間の意思の疎通が今後さらに重要な課題となると思います。同窓会総会ではそうした発展的なご意見をお願い致します。

第3回通常総会と会員発表会のご案内

下記のごとく、総会を実施します。会員の皆様のご参加をお願いします。

記

1. 日時:平成16年4月29日 13:00-16:00
2. 場所:水戸生涯学習センター(234号室)
TEL 029-228-1313
3. 日程:13:00 ~ 14:00・・・「私の課題」発表
(飯塚氏、葛貫氏)
14:00~16:00・・・総会

大学院生活を修了して

山口 文夫

3月14日、大学院の「修了式」に参加し学生証と引換えに学位記が授与された。学生証を記念に欲しいと言ったら学生証にパンチで丸い穴を開けて渡された。

この時、私の心にもぽっかり丸い穴が開いてしまった。この状態では何も出来ない。ドーキンスの「利己的な遺伝子」と西垣通の「基礎情報学」の2冊の本を抱えて、奥会津の温泉宿に向かった。途中の只見町の古本屋に寄ったら、坂村健の「ユビキタス・コンピュータ革命」という本が目についたので半額の340円で購入した。

秘湯といわれる山の中の温泉に着いた。携帯電話は「圏外」を示している。硫黄のにおいがする温泉には誰もいない。一人で独占すると豊かな気持ちになってきた。

野尻川が真下に流れる露天風呂から周囲一面に残る雪を眺めていると、冷たい川風に頭はすっきりしてきた。

大学院は「卒業」と言わず「修了」というのはなぜなのかという思いに駆られる。(大学院は、a postgraduate schoolだから「卒業」とは言わないというような字面からのトートロジー的説明ではなく、もっと本質的なものがあると思った。)辞書によると……

- ・修了:一定の課業を修めおえること。
- ・卒業:学校の全課程を履修しおえること、とある。両者を比較すると、「卒業」は定められた課程を履修することに対し、「修了」は自ら課程を定め修めることかなと思う。

天台宗の宗祖・最澄は「比叡山に来て学ぶ者は12年間は山を降りるな。最初の6年間は先輩の残した業績を只管、学べ。そして後半の6年間は、自らどうすべきかを考え、自ら学べ。」といった。この教えに従い、鎌倉仏教の宗祖は、法然も親鸞も日蓮も栄西も道元も一遍も一度は、比叡山に登り、熱心に学び、やがて自らの考えを確立して山を降りた。

大学院は最澄が言う「後半の6年間」に相当すると思う。その意味で、私は「高齢者のITリテラシー習得支援の創発的研究」という漠然とした研究目標を持って入学し、2年間で具体的な研究目標を定め修めるレベルには達しえず、少しぼんやり自分の研究目標が見えてきた段階で「仮修了」させてもらったのではないかという思いになった。

生命科学と情報科学が出会うことでドーキンスは「文化の遺伝子・ミーム」を提唱した。私は「少しぼんやりとした自分の研究目標」を高齢者の情報交流の研究に深めていかなければならない。

高齢者はDNAに乗る生命の遺伝子は自分の子供に複製して渡してしまったので、生命の遺伝子から見れば高齢者は生存する意義はない。

しかし、「文化の遺伝子・ミーム」の複製・伝播は高齢者であっても充分出来ることであり、人間が50歳以降30年も生きていく意義は「文化の遺伝子・ミーム」の複製にあるのではないかと思っている。高齢者の多様な情報の交流による文化の遺伝子(ミーム)の進化の研究を行うことがこれからの私の進むべき道と思っている。



(同窓会連合会の謝恩会にて)
(細川会長、堂本氏、丹保学長、奥センター長、山口氏)

放送大学大学院修士課程を修了して

堂本 一成

この3月大学院総合文化プログラムの修士課程を幸い修了することができました。平成13年度に教養学部を卒業しましたが、そこで専攻した人間の探求の中で興味を持った文化人類学のコースを大学院で選びました。研究テーマは「都市における先住民とその社会」で、都市生活者となっているオーストラリアの先住民アボリジニに焦点を当て、彼らの都市生活の現状を土産品／絵画を切り口として考察しました。

オーストラリア大陸の先住民アボリジニといえば、広大な大地で狩猟採集を営む民と思っていましたが、そのイメージは一面的なものでした。今日のアボリジニは、オーストラリアの総人口の2%に及ぶ38万人の人々からなっています。このうち約70%が都市部で生活しています。残りの30%弱のアボリジニが辺境と呼ばれる大陸の北部海岸線や中央砂漠地帯で暮らしています。これらの人々こそが狩猟採集民としてのイメージに重なります。従来の文化人類学的研究が対象としてきた辺境のアボリジニについての知識だけでは、かれらの社会の全容を把握しにくくしています。現代のアボリジニ社会を全体的に理解するためには、都市に居住するアボリジニの研究が欠かせないものとなっています。この観点から都市のアボリジニの研究を選びました。

ゼミ仲間は12名で、在住地も北海道から沖縄までに及び、職業背景も市役所の職員、博物館職員、企業の研究員、外国航空の乗務員、現役の大学教授、定年退職者など様々でした。年齢も30歳代から70歳代はじめまでの人たちで、「学びたい人」はいつでも、どこでも、誰でもが学ぶことができるというまさに放送大学の特徴を持っていました。修士全科生の学習支援システムでは、放送大学の専任教授が研究指導責任者になりますが、院生の研究テーマが多岐にわたり、また在住地が広く全国に及ぶため、放送大学の教授だけでなく、専門分野を考慮して委嘱した、全国の大学・研究機関に所属する第一線の研究者が客員教授として研究指導に当たります。

研究テーマは研究指導担当教授と相談の上で決めます。テーマの立て方が重要になりますが、時間的制約がありますのでテーマは出来るだけ限定された狭い主題を選ぶようにします。ただし問題意識としてはそれが広く深い問題に繋がるようにします。その方が将来さらに研究を進めていく上で役立つからです。私たちのゼミ仲間では修士課程を修了した院生は、仕事の事情や病気などでやむを得ず休学した4名を除き8名でした。このうち2名はさらに研究を深めようと他の大学の大学院博士課程に進みました。その他の修了生も研究意欲を失わず今後も機会をとらえて研究を続けていこうとしています。

この2年間は単位の取得や各学期末に提出するレポートの作成に追われましたが、学界の第一人者から直接研究指導を受けたこと、ゼミ仲間の関係をとおして生涯を通じての同学の友を得ることが出来たことは私にとって貴重な体験となりました。

学習センターと合同で研修旅行実施！

平成15年9月20日、学習センターと合同主催の研修旅行が実施され、44名の参加があった。

ガラス工房シリカ(北茨城市)で、ガラス体験した後、レストラン松野屋で昼食をとり、その後、茨城大学五浦美術研究所(六角堂)や茨城県天心記念五浦美術館を見学した。



(六角堂の中から海を望む)

現役学生、学習センター職員、同窓生同士の交流を深める良い機会であった(葛貫記)。



(茨城大学五浦美術研究所にて、茨城大学教授から、天心の生活状況の説明を受ける)

卒業・入学パーティ開催される！

茨城同窓会では、平成15年9月27日、茨城学習センター共催で、入学された方及び卒業された方を対象に歓迎パーティを開催した(生協2階に於いて)。

今まで、9月卒業生は、学習センターからの卒業証書授与のみであったが、今回、茨城同窓会が、学習センターにお願いして、実現したものである。

奥センター長の挨拶、卒業生の挨拶などの後、茨城大学管弦楽団有志による演奏、会長、副会長により尺八合奏などのアトラクションがあり、短い時間であったが、交流を深めた(葛貫記)。



(パーティ状況)

(卒業生松本氏挨拶)



同窓会の忘年会から

昨年12月6日(土)から7日(日)笠間市の労金研修センター「くにみ」に泊して忘年会がおこなわれた。普段会員や役員との交流が少ないために意見交換の場として設けられたが、笠間の文化に触れる良い機会にもなった。

土曜日の昼過ぎに集合して陶器教室「製陶ふくだ」で手ひねりを行うことにした。展示販売の陶器をモデルに各自製作に取り組んだ。よく煉られた塊から引き伸ばしながら茶碗に仕上げていった。収縮をみて大きめに伸ばしたが、指が届かず厚さが均一にならず苦戦した。全体の形としては茶碗の底にぐい飲みを付けたので蓮根みだ。(後日届いた作品には笠間焼き独特の色が塗布され少し重量感があったがまずまずの仕上がりになった)。

翌日は笠間の城跡公園の散策と「座頭市」の発祥の地や「別れの一本杉」のゆかりの地(であること)の発見。陶芸美術館では板谷波山の丹精に浮き彫りされた植物と上品な形にころを惹かれた。また昼過ぎの館内で「野立て」をしていたので、慣れない手つきで見よう見まねのお茶を、冷や汗をかきながら一服ずついただいた。

お天気にも恵まれ、普段できない会話の機会が得られ有意義な忘年会となった(細川記)。



(手ひねり体験)



(お茶を堪能)

同窓会連合会の動きから

■第2回連合会会議から

日時:平成15年12月2日午後1時から

場所:放送大学セミナーハウス研修室

出席者:川上泰子会長(群馬)、伊藤 忠副会長(埼玉)、ほか茨城、栃木、千葉、世田谷、文京、神奈川、長野および監事

議事

- 1) 大学との懇談会について
- 2) 放送大学評議員に同窓会連合会長が就任したこと
- 3) 卒業祝賀、謝恩パーティの開催について
実行委員会平成16年2月15日大学本部セミナーハウスで行う
卒業式は3月14日NKホールで行われる
卒業祝賀、謝恩パーティはヒルトンホテルでおこなう。参加費は10,000円とする。
- 4) 同窓会全国化の状況について
奈良、徳島、石川、香川、新潟に同窓会が設立される。
- 5) 同窓会と大学との懇談会

場所:大学本部の若菜会館

出席者:大学側 丹保学長以下12名

同窓会側 川上会長以下12名

内容:学長より放送大学の状況と今後の展望について、とくに国立大学の特殊法人化に向けての取り組み。同窓会側からは活動状況などについて。茨城同窓会からは老朽化したパソコンの更新について申し入れを行った。

■第3回連合会会議から

日時:平成16年2月15日午前10時から

場所:放送大学セミナーハウス

- 1) 平成15年度卒業祝賀、謝恩パーティについて
卒業祝賀、謝恩パーティ実行計画案について、実行委員名簿について、実行委員役割分担について、タイムスケジュールについて
- 2) その他

各同窓会会員数の状況について

平成16年1月31日現在同窓会会員数6,828名

(細川記)

編集後記

茨城学習センターでは、今年の3月に、大学院で、3名の初の卒業生が誕生しました。今回、2名の方から寄稿していただきました。他、研修旅行、卒業・入学パーティ、忘年会などの行事報告をさせていただきます。

皆様からの原稿をお待ちしております。原稿は、メール、FAXにて受け付けております。

・メール:s-kuzu@doctor.email.ne.jp

・FAX :029-273-3341(葛貫宛)